



CellSource

2020年10月期第3四半期 決算説明資料

セルソース株式会社

2020年9月



決算ハイライト



決算の状況



トピックス



成長戦略

前年同期比で増収増益を達成

(百万円)	2019/10期3Q(前期) (2018年11月-2019年7月)	2020/10期3Q(当期) (2019年11月-2020年7月)	前年同期比
売上高	1,172	1,311	+139 (+12%)
売上総利益	843	877	+34 (+4%)
販管費	615	624	+9 (+1%)
営業利益	227	252	+24 (+11%)
四半期(当期)純利益	145	158	+12 (+9%)

2020年10月期業績予想に対して70%弱の進捗率

(百万円)	2020/10期(予想) (2019年11月-2020年10月)	2020/10期3Q(実績) (2019年11月-2020年7月)	進捗率
売上高	1,972	1,311	67%
営業利益	365	252	69%
経常利益	365	250	68%
四半期(当期)純利益	234	158	67%

※ 2019年12月12日に開示した業績予想は変更無し。

提携医療機関数が前年同期の約2倍に増加し、加工受託件数も伸長

	2019/10期3Q(前期) (2018年11月-2019年7月)	2020/10期3Q(当期) (2019年11月-2020年7月)	前年同期比
売上高営業利益率(%)	19.4	19.3	▲0.1
脂肪由来幹細胞 加工受託件数(件)	533	658	+125
血液由来加工受託件数(件)	2,879	4,869	+1,990
期末提携医療機関数(院)	237	468	+231



決算ハイライト



決算の状況



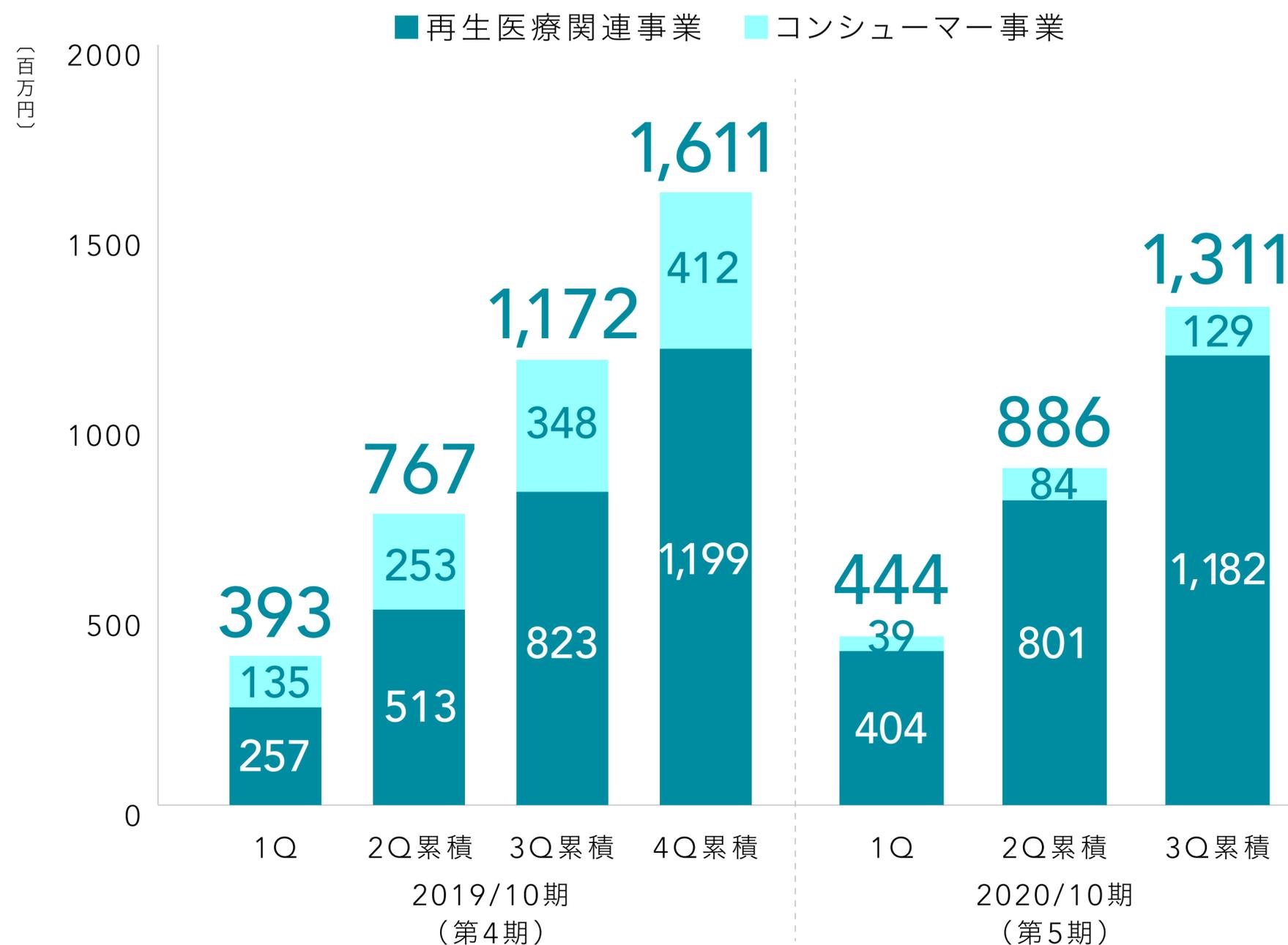
トピックス



成長戦略

- 7月単月売上合計が **過去最高**（185百万円）
- 再生医療関連事業の7月単月売上が **過去最高**（171百万円）
- 再生医療関連事業の7月単月加工受託件数が **過去最高**
- 再生医療関連事業の四半期あたりの加工受託件数が **過去最高**
- 四半期における新規契約医療機関数は **過去最高** の64院
- 血液由来（PFC-FD）加工の累計受託件数が **1万件を突破**
- 産科・婦人科領域での事業（不妊治療）の順調な立ち上がり → **既に25院と提携**
- コンシューマー事業が当四半期で **黒字に転換**

加工受託件数の増加により再生医療関連事業の売上高が伸長

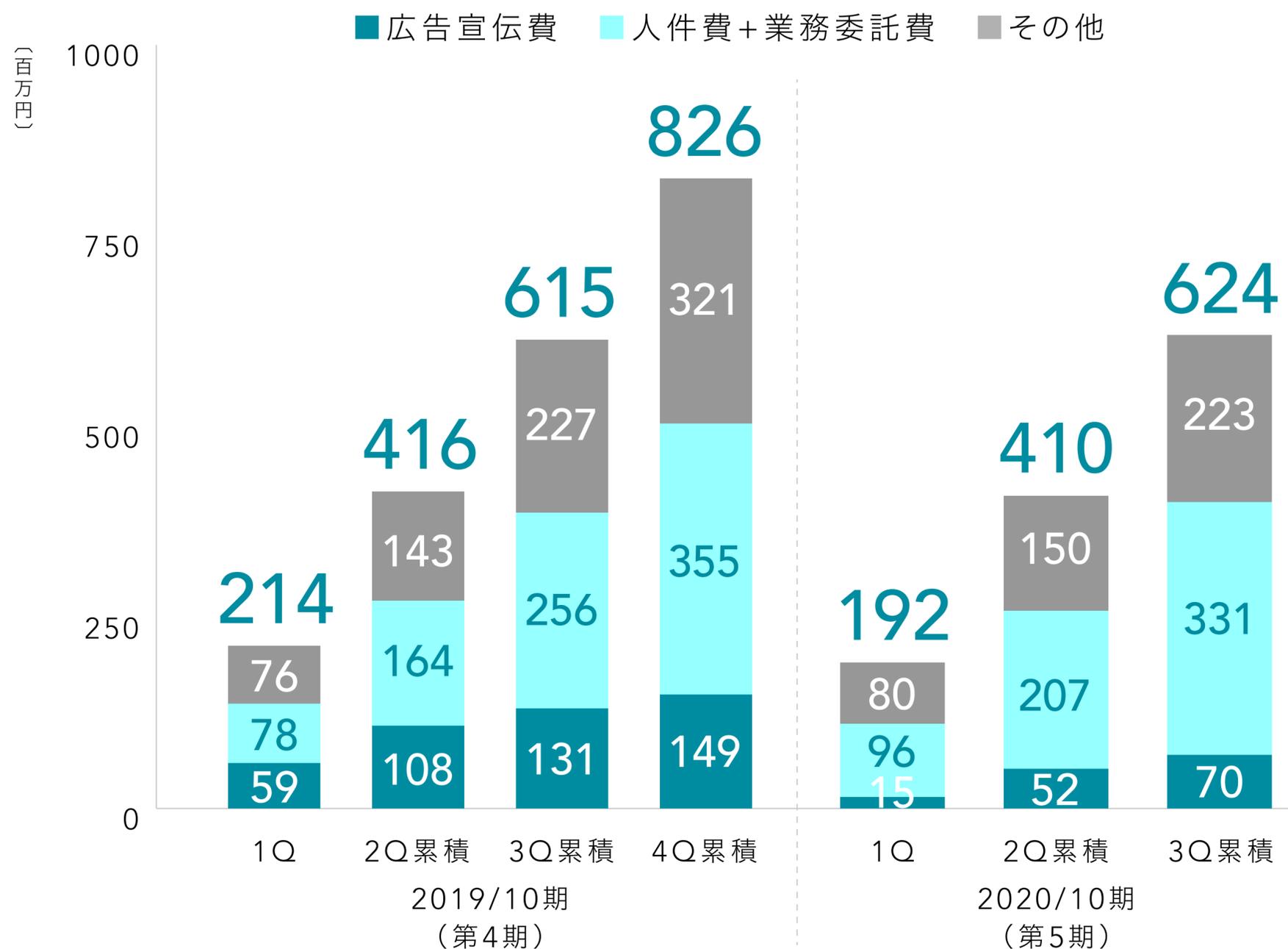


1,311 百万円
 (前年同期比) **+139**百万円

再生医療関連事業 (前年同期比)
1,182百万円 **+359**百万円

コンシューマー事業 (前年同期比)
129百万円 ▲**219**百万円

コンシューマー事業の販売戦略転換により広告宣伝費を抑制



624 百万円

(前年同期比) **+9** 百万円

広告宣伝費

70 百万円

(前年同期比)

▲ **61** 百万円

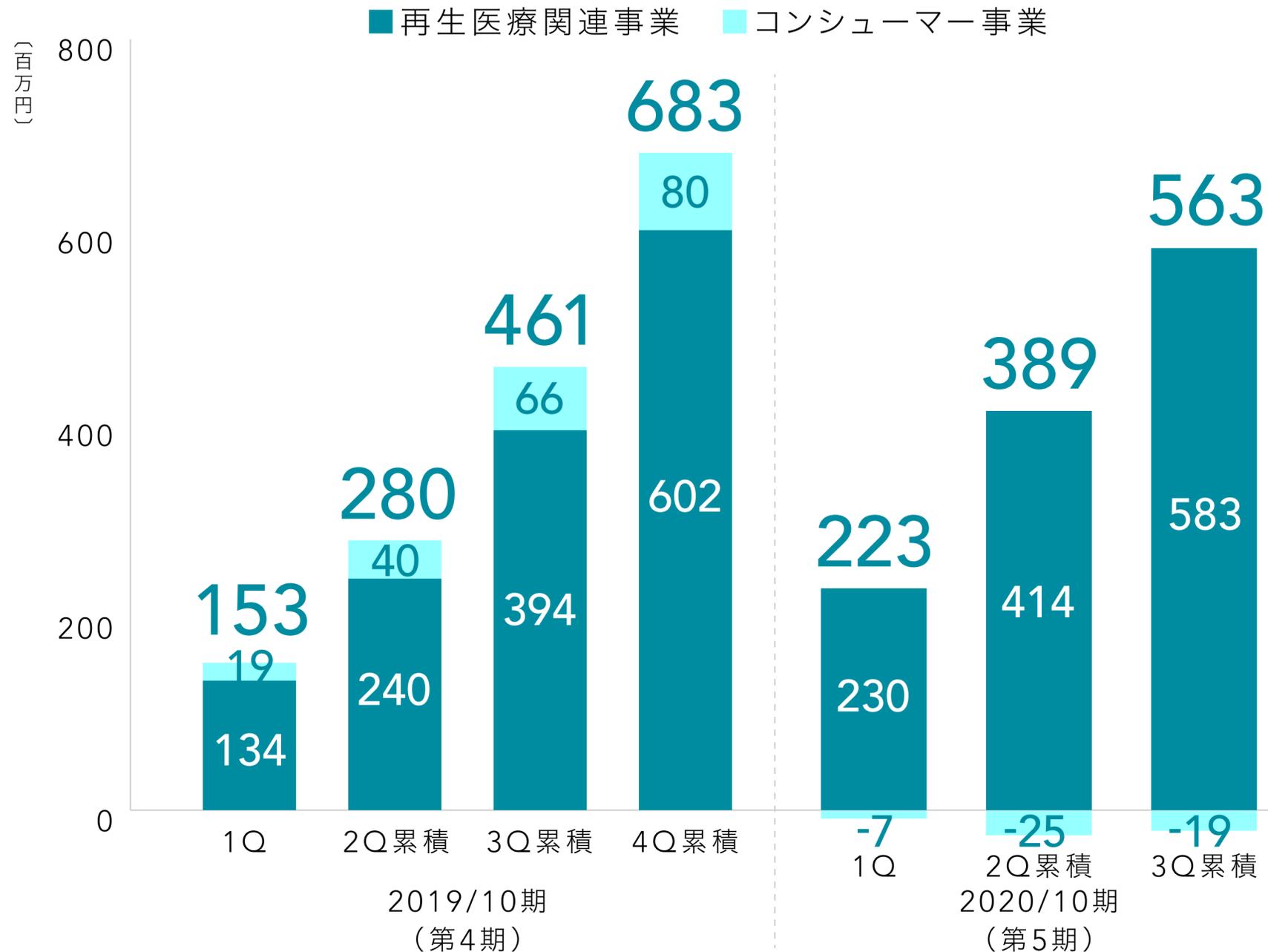
人件費+業務委託費

331 百万円

(前年同期比)

+74 百万円

再生医療関連事業が大幅に伸長し、コンシューマー事業は当四半期黒字転換



563 百万円

※ 報告セグメントに含まれない全社費用310百万円調整後の営業利益は252百万円です。

(前年同期比) **+102** 百万円

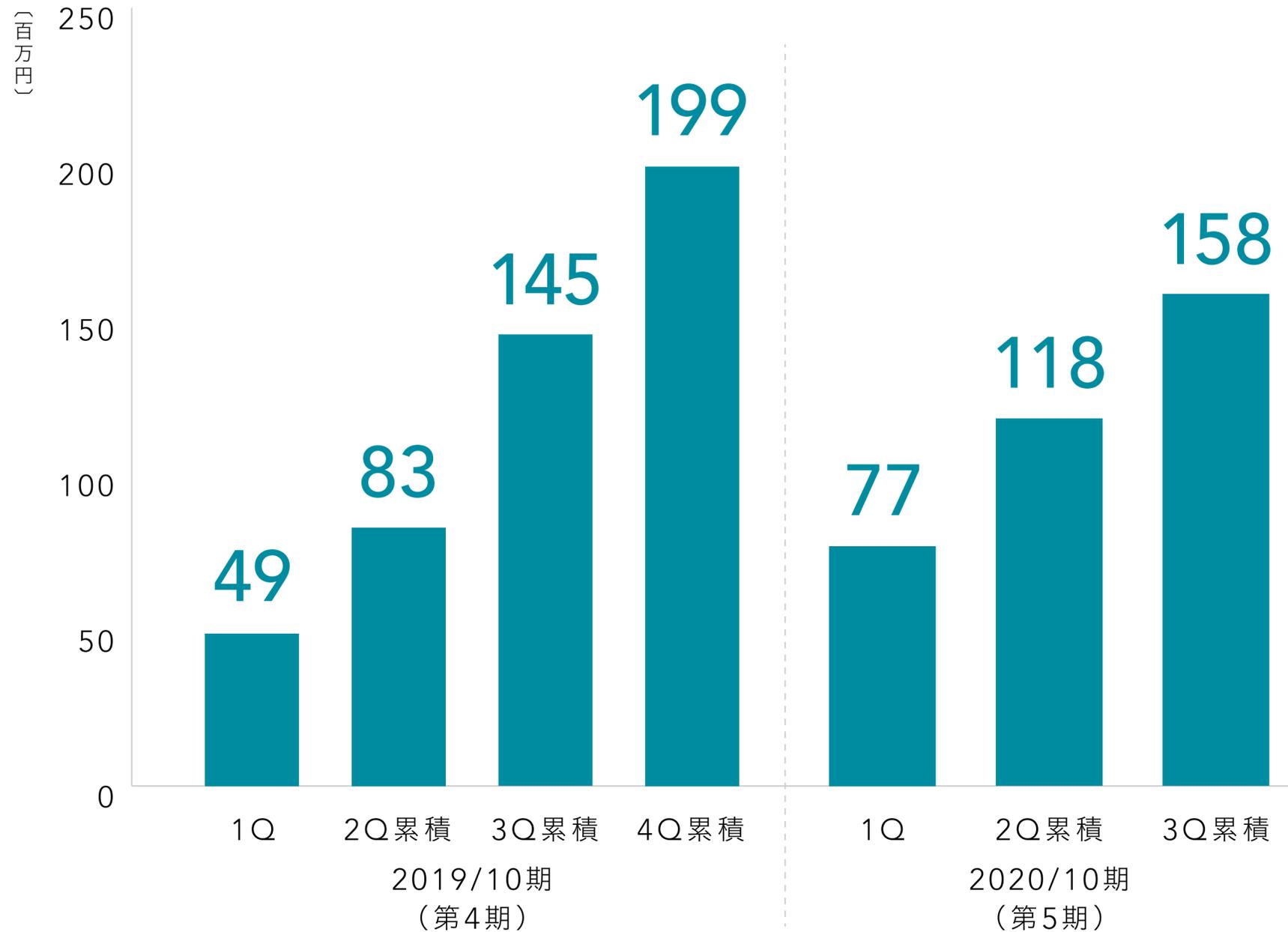
再生医療関連事業 (前年同期比)

583 百万円 **+189** 百万円

コンシューマー事業 (前年同期比)

▲ **19** 百万円 ▲ **86** 百万円

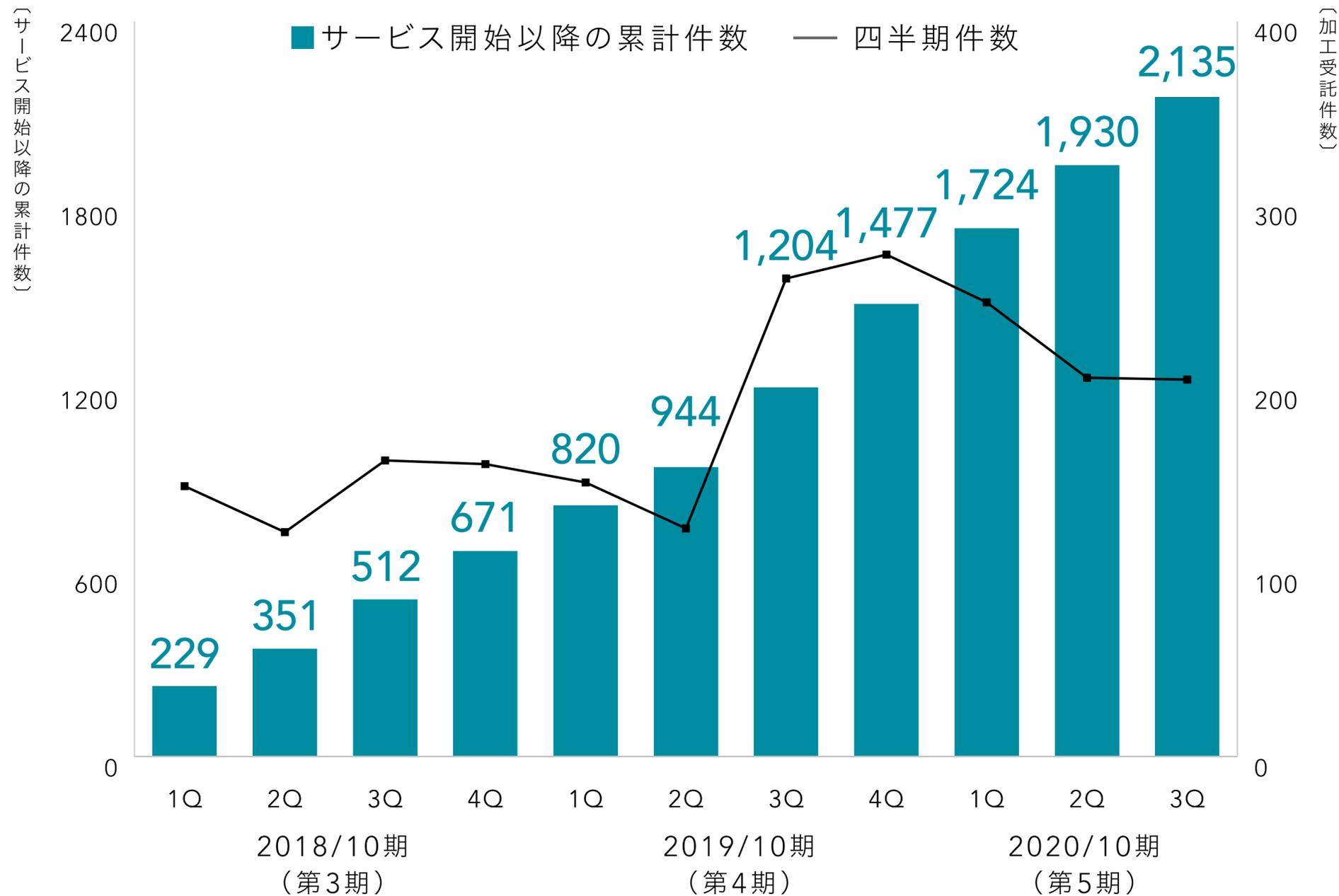
増収及び売上の伸びに対して広告宣伝費を抑制したことにより、前年同期を上回る



158 百万円
(前年同期比) **+12** 百万円

新型コロナウイルス感染症の影響がありつつも、加工受託件数は引き続き高水準で推移

脂肪由来幹細胞加工受託件数(ASC)



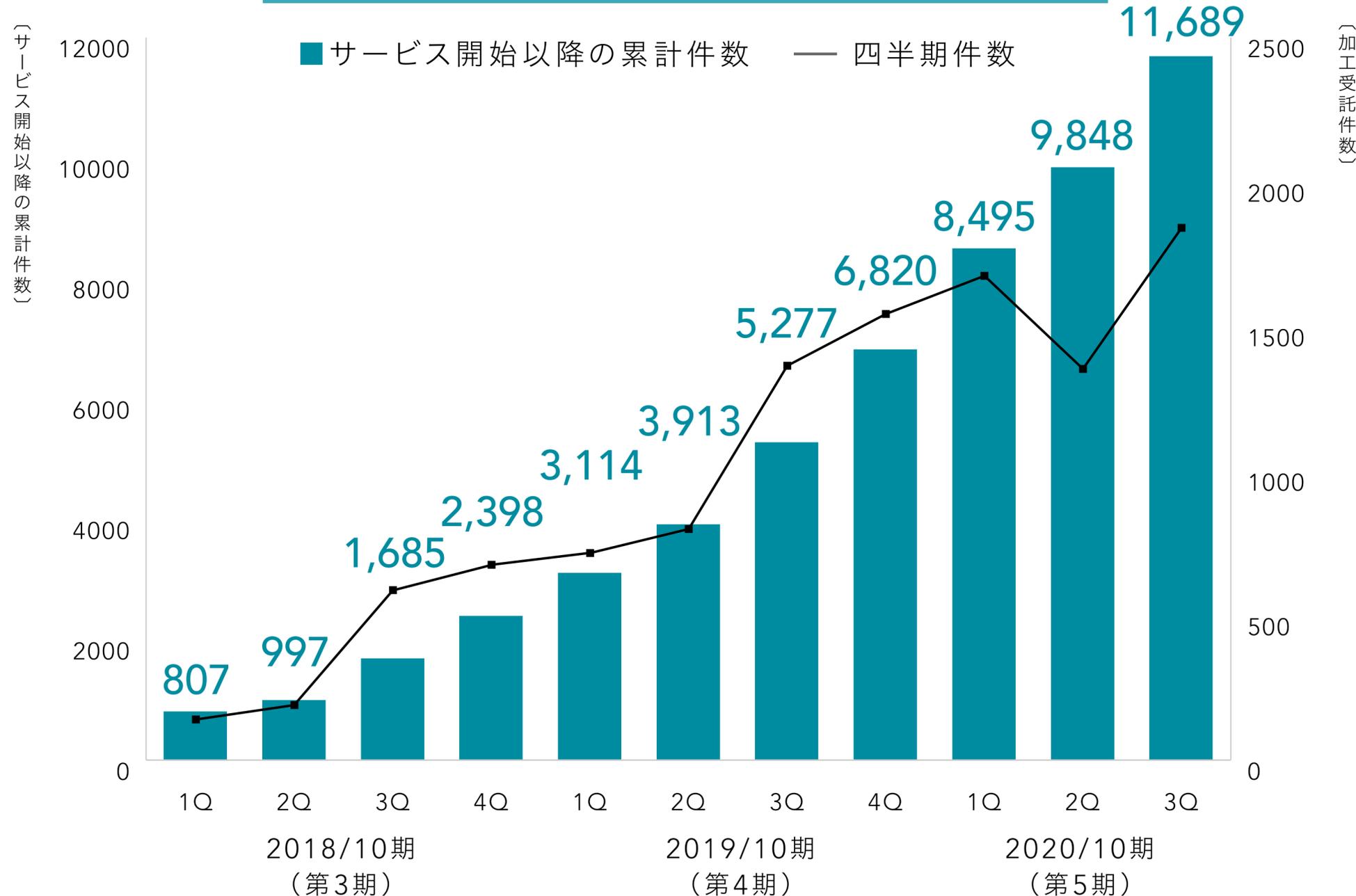
累計

2,135件

当期3Q 205件

累計1万件を突破し、四半期あたりの受託件数が過去最高を記録

血液由来加工受託件数（PFC-FD）



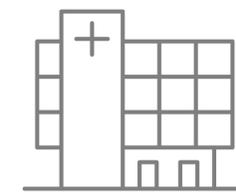
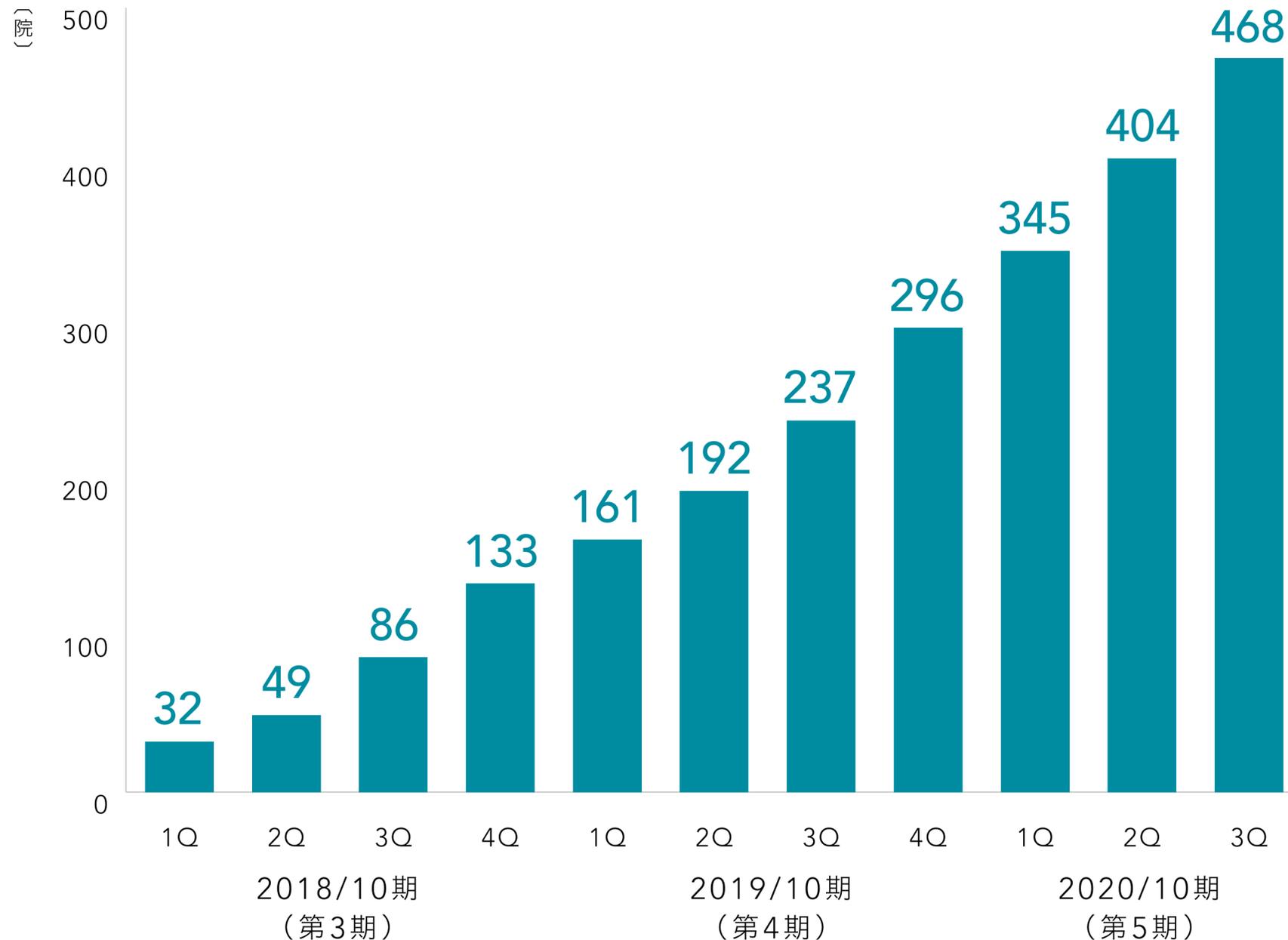
累計

11,689 件

当期3Q 過去最高 1,841 件

整形外科、産科・婦人科ともに新規契約数が増加し、四半期当たりの新規契約医療機関数が過去最高に

提携医療機関数



468 院

当期3Q 過去最高 64院新規契約

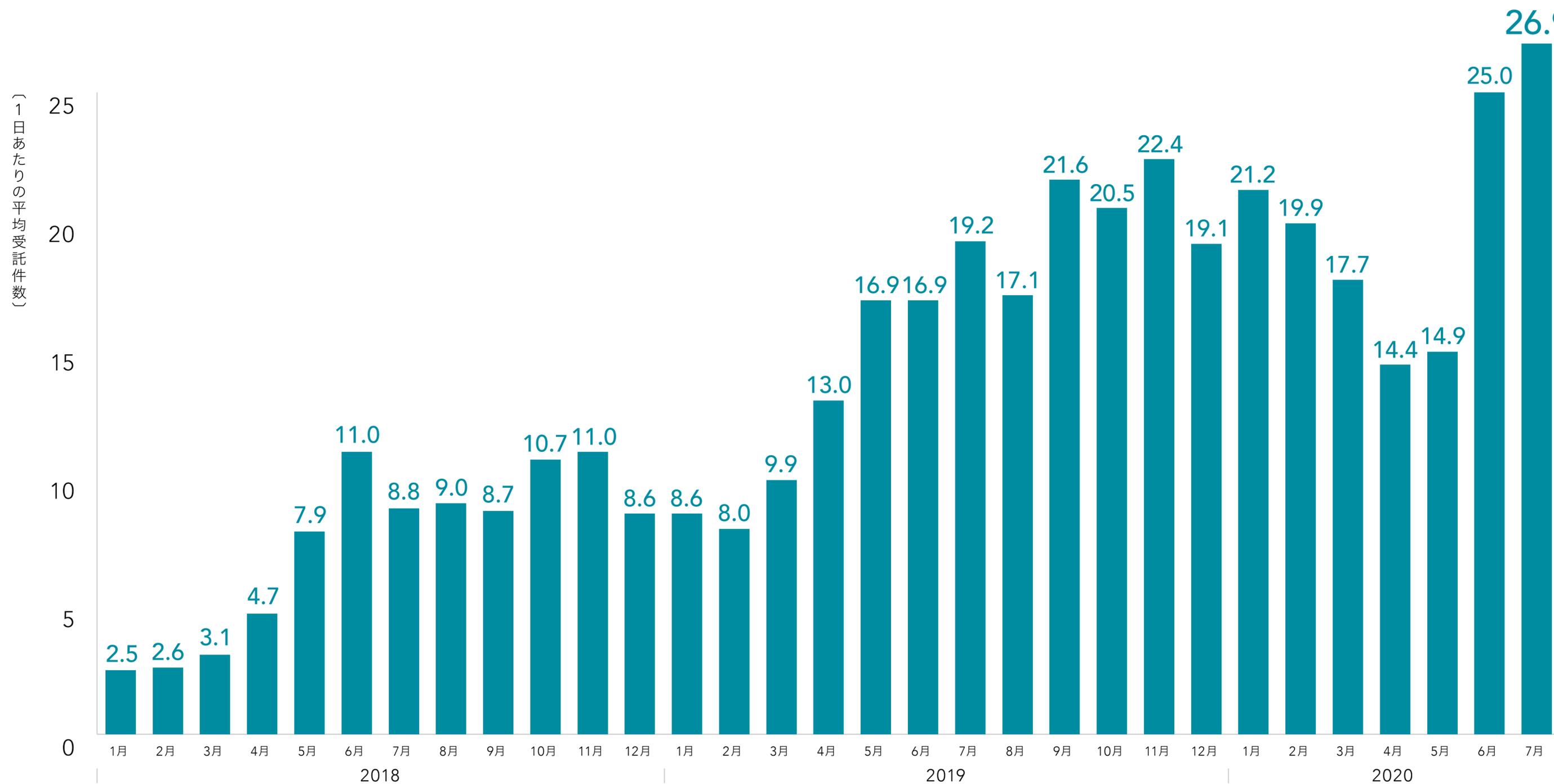
コンシューマー事業が当四半期で黒字に転換

(百万円)	2018年10月期				2019年10月期				2020年10月期			前Q比
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	
売上	215	272	342	381	393	373	404	439	444	441	425	▲16
(再生医療関連事業)	144	183	207	241	257	256	309	376	404	397	381	▲16
(コンシューマー事業)	71	89	135	139	135	117	95	63	39	44	44	0
販管費	80	115	185	198	214	202	198	211	192	217	214	▲3
営業利益	64	72	57	100	76	52	99	99	124	63	64	1
(再生医療関連事業)	84	102	108	136	134	106	154	208	230	184	168	▲15
(コンシューマー事業)	11	11	0	37	19	20	26	14	▲7	▲18	5	23
(全社)	▲31	▲243	151	▲66	▲77	▲74	▲81	▲123	▲98	▲102	▲109	▲7
四半期純利益	41	47	36	67	49	34	62	53	77	40	39	0
加工受託件数(件)	287	312	849	872	865	923	1,624	1,816	1,922	1,559	2,046	487
(脂肪由来幹細胞加工受託件数(件))	147	122	161	159	149	124	260	273	247	206	205	▲1
(血液由来加工受託件数(件))	140	190	688	713	716	799	1,364	1,543	1,675	1,353	1,841	488
期末提携医療機関数(院)	32	49	86	133	161	192	237	296	345	404	468	64

加工受託件数（1日あたりの平均受託件数の推移）

新型コロナウイルスの影響による一時減少からV字回復後も増加ペースが加速し過去最高に

過去
最高





決算ハイライト



決算の状況



トピックス



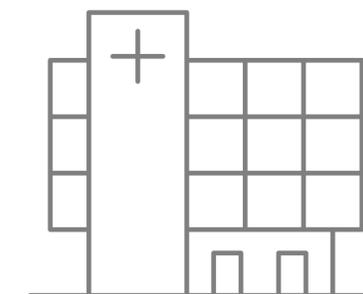
成長戦略



血液由来加工受託サービス(PFC-FD)[※]
フリーズドライ化により、
医療機関内にて室温かつ長期間での保存が可能



産科・婦人科



患者さま



治療

不妊治療に用いるための PFC-FDの加工受託サービス

子宮内に投与することで受精卵の着床の可能性を高める不妊治療を目的としたPFC-FDの作製を医療機関より受託する。

2020年7月時点で提携医療機関数は25院

不妊治療分野の基本情報

- ・体外授精、顕微授精、凍結融解杯を用いた治療周期総数は約45万件／年¹⁾
- ・新生児のおよそ16人に1人が体外授精により出生²⁾
- ・体外受精・胚移植に関する登録施設は621施設³⁾

参考

- 1) 日本産科婦人科学会「平成30年度倫理委員会 登録・調査小委員会報告(2017年分の体外受精・胚移植等の臨床実施成績および2019年7月における登録施設名)」
- 2) 厚生労働省「平成29年(2017)人口動態統計(確定数)の概況」並びに(2)を参考に算出
- 3) 日本産科婦人科学会 施設検索(2020年9月現在)

※ PFC-FDはフリーズドライ加工によってパウダー状に調製されているため、医療機関さまの施設内において室温での長期保存が可能です。なお、PFC-FDの調製方法は当社にて特許を取得しています。

産科・婦人科への事業拡大

不妊治療に新しい選択肢を提供

学術誌への臨床成績論文の掲載

「関節外科 基礎と臨床」

2020年9月号

(メジカルビュー社)

学会でのセミナー共催

医師からの治療実績報告による認知度向上

- 日本整形外科学会学術総会
- 日本再生医療学会総会

営業体制の拡充

チーム体制の強化

WEBを活用した効率的営業活動

株式分割を実施

基準日 2020年10月31日

1株につき3株の割合

投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を目指す

1

決算ハイライト

2

決算の状況

3

トピックス

4

成長戦略

様々な大学・行政機関と提携し、事業に取り組む

大阪大学

「エクソソーム」を含む細胞分泌物を用いた
変形性関節症治療法の開発に向けた共同研究

横浜市立大学 富山大学

当社で加工を受託する脂肪由来培養幹細胞を用いた
再生医療による乳房再建

順天堂大学

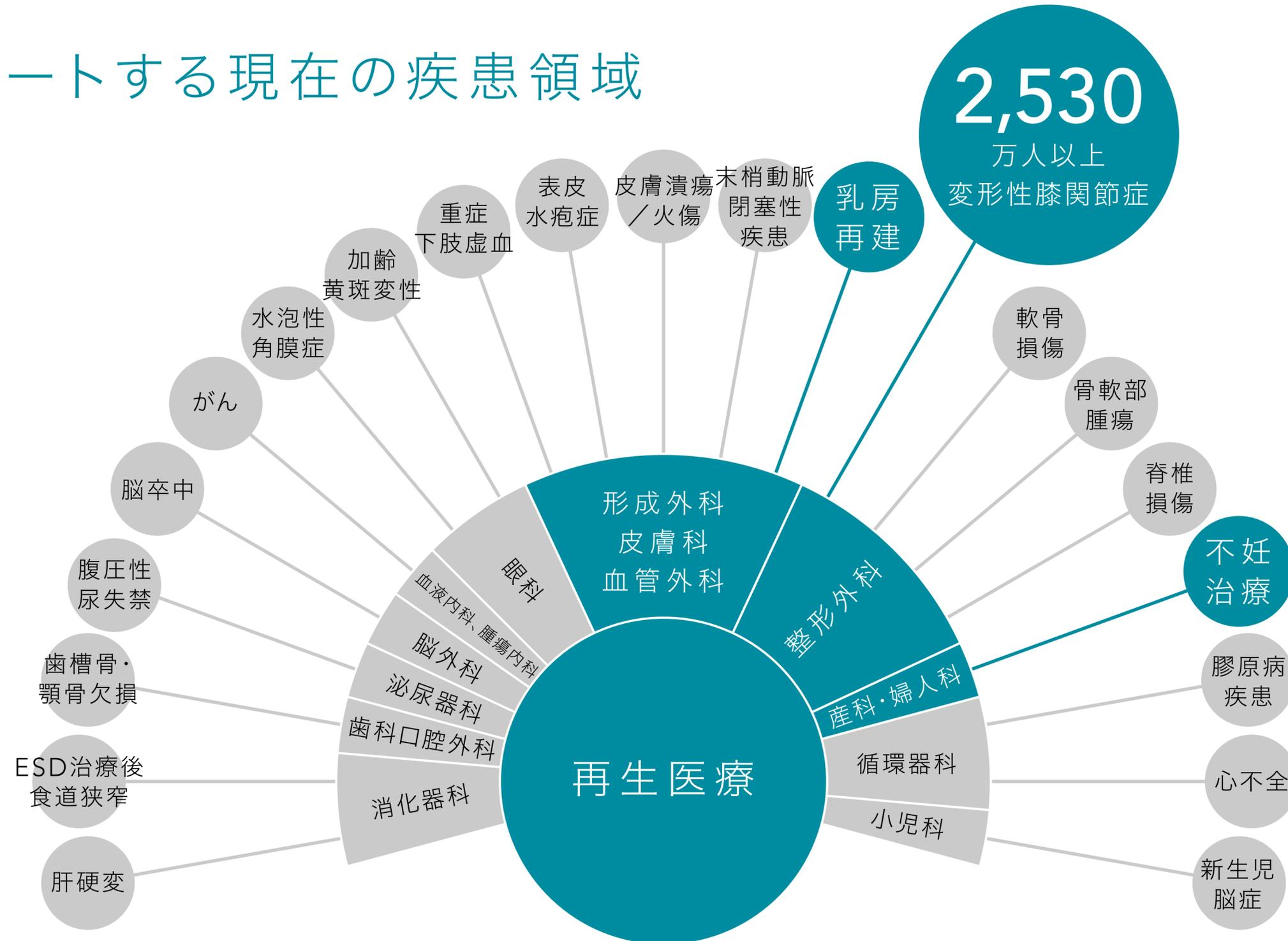
PFC-FD・エクソソームを用いた
女性の卵巣機能不全の改善を目的とする共同研究

大阪府

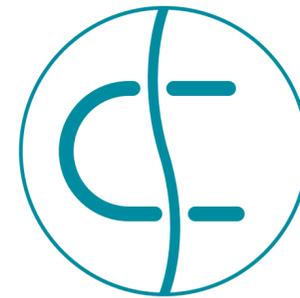
再生医療をベースとした「未来医療国際拠点」全体を
オーガナイズする「未来医療推進機構」の設立者として参画

整形外科、形成外科、産科・婦人科に加え、更なる対象領域の拡大が見込まれる

当社がサポートする現在の疾患領域



日本は再生医療関連法基盤の先進国であり、当社の事業モデルはグローバル展開が可能



CellSource

市場に先行参入した強みを生かし、
グローバル市場への進出も視野に入れ事業を推進してまいります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、市場環境、法的規制、品質・安全性の確保及び製造体制、特定の取引先、風評リスク、研究開発、広告宣伝戦略、システム障害等が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



CellSource